



公立世羅中央病院だより

No.62

救急外来受診の手引き(15)

—糖尿病の急性合併症—

公立世羅中央病院 内科部長 守田善行

糖尿病で最も怖いのは、糖尿病合併症です。中でも、急性合併症は経過が早く、緊急の対応が必要となることがあります。『糖尿病性昏睡』『低血糖』『シックデイのとき』の三つについて解説したいと思います。

1. 糖尿病性昏睡

糖尿病の患者さんに起こる糖尿病性昏睡には、『糖尿病ケトアシドーシス』と、『高浸透圧高血糖症候群』の2種類があります。どちらも、生命にかかわる危険な状態です。糖尿病ケトアシドーシスは、1型糖尿病でみられ、高浸透圧高血糖症候群は、2型糖尿病の高齢者に多くみられます。

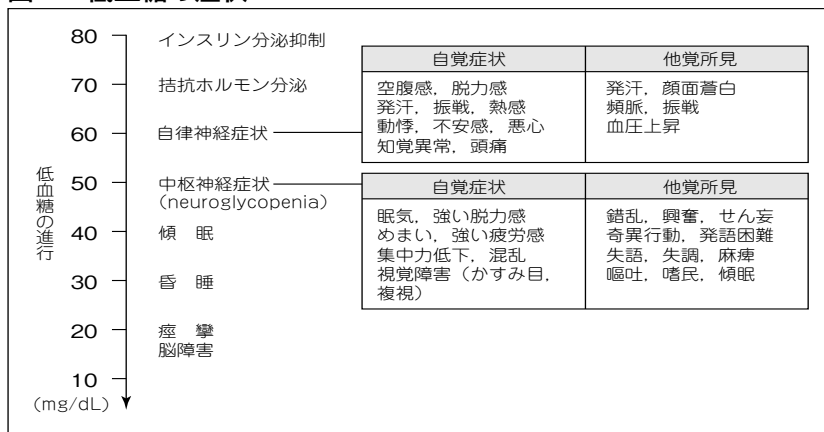
糖尿病性昏睡あるいはそれに近い状態では、一刻も早く入院の上、大量の輸液とインスリンの投与が必要です。疑わしい場合は、主治医に相談の上、出来るだけ早く診察を受けるようにしましょう。また、外出先等のときは、糖尿病で治療中であることをしっかりと伝えたと上で、診察を受けましょう。

2. 低血糖

低血糖とは、血液中のブドウ糖が少なくなり過ぎることで、具体的には血糖値がおよそ70mg/dl未満になった状態です。薬の副作用として見られることもありませんが、食事が少なかったり、運動が多い場合などに起こります。

図1のような、症状が見られます。軽い低血糖の場合は、ブドウ糖摂取などで、自分で対応できる場合もあります。普段から、ブドウ糖や砂糖を携行する様にしましょう。意識障害がみられる場合は、すぐに救急車で最寄りの病院へ行き、ブドウ糖の

図1 低血糖の症状



注射を受ける必要があります。

3. シックデイのとき

糖尿病の患者さんも、健康な人と同じように風邪をはじめとする様々

表1 主治医を受診すべきシックデイのチェック項目

- ・まったく食事が摂れない
- ・下痢や嘔吐が続く
- ・高熱が続く (38℃以上)
- ・腹痛が強い
- ・高血糖が続く (250mg/dl 以上)
- ・尿検査用紙を持っている場合：尿ケトンが強陽性となる
- ・尿検査用紙を持っている場合：尿糖が強陽性となる
- ・内服薬やインスリン注射をどうしたらよいかわからない

な病気に罹ります。糖尿病患者さんがほかの病気に罹った状態を『シックデイ』(Sick Day)と呼び、血糖値が不安定になりやすいので、注意の必要があります。様子を見るか、主治医に相談するか、あるいはすぐに受診するべきか、前もって主治医と相談をしておきましょう。表1に、主治医を受診すべきシックデイのチェック項目を挙げておきました。